

令和2年度 第1回 四万十町総合教育会議

日時：令和2年10月20日（火）午前10時～ 12時

場所：四万十町役場本庁 西庁舎3階 防災対策室

1 出席者

町長 中尾 博憲
教育長 山脇 光章
教育委員 横山 順一
坂本 維子
石崎 豊史
佐々倉 愛

〔教育委員会事務局〕

教育委員会	教育次長	浜田 章克
学校教育課	課長	西谷 典生
	副課長	東 孝典
	教育対策監	中川 千穂
生涯学習課	課長	林 瑞穂
	副課長	味元 伸二郎
	副課長	佐竹 あゆみ
	主査	西尾 洋亮

〔事務局〕

総務課	課長	熊谷 敏郎
	主事	森田 桃花

2 傍聴者 4名

3 日程

- ① 開会
- ② 町長挨拶
- ③ 教育長挨拶
- ④ 会議録署名人の指名（町長・教育長）
- ⑤ 議題
 1. 義務教育学校について
 2. 文化的施設について
- ⑥ 閉会

議 事 （進行役：総務課長）

総務課長 「義務教育学校について」を議題としますので、教育委員会事務局から説明をお願いします。

教育委員会事務局から、配布資料に基づき、義務教育学校の目的、運営等について説明

西谷課長 学校教育課では、以前に高知市立義務教育学校土佐山学舎を視察したことがありますので、お時間を頂いて説明いたします。

視察した時期は、平成28年8月末で土佐山学舎の開校が平成27年4月なので、開校して1年5か月後です。

まず、設立の動機についてです。

旧土佐山村は平成17年に合併し高知市となりました。旧来、土佐山地区は教育に熱心な土地柄というもあり、地域では成人してからも夜学会や青年会などを開催して、政治や産業、地域の活性化など、幅広い分野で勉強に取り組んでいました。

そうした中、高知市は学校を地域活性化の核とした「土佐山百年構想」を打ち出し、地域の特産品の開発や、交流・定住人口の拡大プロジェクトと合わせて、土佐山小中学校を小中一貫教育の特認校として土佐山学舎を開校しました。

次に土佐山学舎の教育についてです。

義務教育学校は、9年間の義務教育の中で、学校の特徴に合わせた教育プログラムを組むことが可能です。ただし、学習指導要領に定められた内容を実施する必要があります。

土佐山学舎は、9年間を3ブロックに分けています。1～4年生を学習習慣確立期、5～7年生を基礎・基本定着期、8・9年生を発展・応用力充実期とし、5年生から教科担任制を導入していました。

授業については、小学校の授業に中学校の先生が入ることもあるとのこと。また、学年の枠にとらわれない縦割り活動で、1～9年生での編成で掃除などを共に行い、異学年間の交流を実施していました。

特徴的な取組としては、1年生から外国語の授業を取り入れています。

スクールバスの送迎の待ち時間を利用して、民間のALTが歌やゲームなどを行い、英語に関心を持たせるようにしていました。

部活動としては、中学校は男女バドミントン部と英語部があ

り、今後は5年生から部活動に参加できるよう検討しているとのことでした。

土佐山学舎の施設ですが、木造3階建ての校舎を平成26年に改築、特別支援学級を除く全教室に電子黒板やデジタル教科書が配備されていました。パソコン教室の他にもタブレットPCを各階に10台ずつ配布し、全教室で無線LANが使用できる環境でした。

また、エアコンとLED照明も全室配備されていて、当時としては、最高の教育環境となっていました。

生徒児童の確保についても聞いてみました。土佐山学舎は特認校に指定されていることもあり、校区以外から公募により1学級20人程度を確保するようにしているとのことであり、それ以上の希望があった場合は、抽選していると伺いました。視察当時は120人程度の児童生徒が在籍しており、その内70人程度が校区外からスクールバス等で通学されていました。

また、義務教育学校のメリット・デメリットについても聞きました。

メリットとしては、教育課程を9年間である程度自由に設定できる、小学校・中学校どちらの教員でも指導に入ることができ、専門性を持った教員が指導に当たれる、教科担任制やクラブ活動の早期導入ができる、1年生から9年生の異学年交流ができるということで、7～9年生、いわゆる中学生が小学生に頼られることも多く、自尊心を養うことができる、中一ギャップの解消や不登校児童生徒の減少が期待できる、顔見知りの教員が多いので児童生徒に安心感がある、教育目標をしっかりとさせ、9年間の長い課程でどのような教育を行うか、学校の特色を出せるなどをお聞きしました。

デメリットは、人間関係が固定化し、新たな関係を構築する経験ができない、施設の改築に費用がかかるとのことでした。

以上で説明を終わります。

総務課長

ありがとうございました。意見交換の時間を長く取りたいと思いますので、それぞれ意見をいただく中で、質問等もお願いします。

町長

本町は、小中連携教育推進協議会を設置していますが、今の活動内容などはどうなっていますか。

西谷課長

小中学校の先生方が同じような研究テーマを持ち、つながりも

含めて意思統一して取組をしています。

町長 義務教育学校などは、想定せずにですか。

西谷課長 想定せずに行っています。義務教育学校については、統合に当たって義務教育学校も一つの選択肢ではないかという観点で視察を行ったところです。

佐々倉委員 私がこのお話を聞いた時に、義務教育学校を作りたいという明確な意思はまだないと伺っていましたが、四万十町に合うのか、導入した時のメリット・デメリットを考えてみました。

最初に思ったのが、義務教育学校であっても、小中一貫校であっても何を目的にするのかを明確にしておく必要があるということでした。

例えば、先ほど話が合った適正配置の関連では、教育の質を充実させたいから小中一貫にするのか、土佐山学舎のように目玉になる学校を作って、他地域から児童生徒を受け入れて、地域に学校を残すことを目的とするのか、両方に進めるとかなり中途半端なことになると思う。もし、進めるのであれば、どちらをメインにするかを明確にする必要があると思いました。

教育内容を充実させるところでいうと、先生が小中を跨いだ指導になるので、そこまでの臨機応変に対応できる先生方がいるのか、異動がある中で揃えられるのか、入れ替わりがある中で先生方に負担がかからないかが課題です。

調べてみると、小中両方の免許を持っている先生は、小学校には多いけれども、中学校の先生の中には30%程度しかいないんだそうです。中学生側の教員には部活動もあり、現状でも大変忙しい中で、問題ではないかと思います。

この地域の活性化のために学校を作るのであれば、小中一貫にするだけではあまり意味がないと思います。今、全国的にも言われていますが、9年間の課程を9年間と定めずに、4年・3年・2年と区分を設け、個人の進められるペースで学習課程を修了するというドイツ式のプランを導入するとか、国際教育を導入するとか、一般的にはない特色を持たせることができないといけないと思います。

交通の便も、土佐山学舎ほど良いわけでもないのに、なかなか立ち行かないし、そのあとのことを考えると厳しいものがあると思いました。

北ノ川や十川の視察をさせていただくと、運動会を一緒にし

ていたり、かなり横の連携は進んでいると感じています。

子どもたちからすれば、今と何が変わるのか分らないか思うし、それよりも、先生方が本当に連携をしたり、子どもが6年間で終えられなかったことをどう3年間でカバーしていくか、やりとりの質が徹底できれば、一貫校の形を取らなくてもできる状況にあると感じてます。

横山委員

教育委員会がこういう特色のある学校を作れてない状況があるので、もし進めていくのであれば、目的や特色をしっかりと考えていかなければならないと思います。

小中連携は、結構、各学校が行っています。それに加えて、もし義務教育学校を作るという仮定で話すと、北ノ川小と北ノ川中は、立地的条件は良いものの中学校は統合が進んでいますので、しっかり目的を立てて学校を作れば十川小と十川中がとても良いと思います。

十川小は、2027年に建築60年となり、十川中は、2025年に改築の予定という計画もあるかと思いますが、そういう折に、施設一体型の新設の学校を作る構想も立てられるのではないかな。

それから、子どもたちだけでなく、地域の発展にも学校はすごく大事なので、併設して図書館も充実させるなどの案も立てることができるのではと思います。

議題は、義務教育学校についてですが、教育委員会では、十川小と十川中で義務教育学校ではなく隣接型一貫教育を検討していますが、課題を確認して目的を決めなければと思っています。

本町の小中学校については、それぞれの条件に応じた取組を考えればと思います。子どもたちの笑顔にいい影響があるよう小学校や中学校をどのようにして行けばいいか聞きたいと思います。

佐々倉委員

私が見せていただいた中では、言われるとおり課題が違うと思います。それぞれの課題に対しては、一貫校はいいところがあると思います。

例えば、窪川小中であれば、今の中学2年生が、小学校もちよっと落ち着かない様子が見て取れるので、そういう意味でも小中が一貫して、9年間、9学年の中で交流するというのはどちらにも良い影響があると思います。

保護者と先生が対応すべき先が一か所になるのは、かなり効率が良くなるのでは。先生方には公務分掌があり、自分の授業があり、生徒指導をしなければいけないという中で、9年間、自分以外にも見てくれる先生がたくさんいる状況で生徒指導していくのはすごくスムーズで、保護者からも9年間通して先生が見えているのは、安心感があると思えるので、そういう意味では窪川小中での導入も一つの方向だと思います。

十川でいえば、地域を巻き込んだ教育、コミュニティスクール化の意味でも、すでにスムーズに出来ています。書類上は出ていませんが、授業で地域の中に入るということは、かなりできています。その分、先生方が働く時間や距離や移動時間がだいぶ違うので、先生の働き方改革で出来た時間をさらに子どもに向けていただくという意味では、いいと思います。

図書館ないし保育所も隣接するようになるので、そこで一体になった生涯教育の完結にも、伸び伸びとした場になると思うし、災害時にも強い場所になるのかなと思います。

町長 窪小窪中の方がより効果が出ると考えていますか。

佐々倉委員 そうですね。発達障害児への対応などから見ても、9年間って猶予があるのはかなり先生方もプレッシャーに感じなくていいというのはあるのではと思います。その後の高校進学にもかなり関わってくるので、そうすると窪川高校も含めて考えないといけなくなると思います。

町長 幼保から始まって、小中高と行きますね。

佐々倉委員 そうですね。高校まで行かせていないと進学率などか影響すると思います。進学ができない子どもは、外に出始めるので、そこまでを見越した検討が必要です。

教育長 現在、小小・小中の連携は推進協議会でやっていますが、それは全体的な共通の課題なり、情報共有なりについてです。

実際、中学校区を中心に、中学校が目指すべき15歳の姿を描いた学校経営目標を、校区の小学校と連携してやっていこうということには今も取り組んでいます。

窪川地区の7校の小学校と、大正、十川とは、立地条件などが違いますが、適正配置を見据えた中で、一体型の新たな小中一貫校の構想は、一つの方法だと思いますし、検討にあたっては、対応すべきハードルもあろうかと思っています。

全国的に見ても中山間地域では、存続、活性化を目指して小

中一貫校を的な動きがかなり以前からあります。

土佐山学舎は、地理的な条件で高知市内という人口が多い所から来てもらえるということがあり、旧土佐山だけでは、子どもは何十人しかいないのに、一定規模が確保されています。

ただ本町は、地理的条件で送迎は無理な状況ですので、移住定住に向けて特色を打ち出すなど、課題を整理する必要があるかと思います。

10年20年先を見据えた適正配置に向け、義務教育学校は学校環境の1つの方向だと思いますので、教育委員会としても引き続き研究議論を進めて行こうと思っておりますが、現段階で、今の適正配置計画に、義務教育学校を入れることは拙速と考えます。

町長 小学校中学校で、今の状態でやれる限界がどこまでなのか、教職員の状況、免許の問題などの整理が必要だと思います。

やるとすれば、目的も明確にしなければならないので、研究課題になりますね。

教育長 研究課題でもあり、十和地域では十川小中学校の近くには小鳩保育所が整備されていますが、昭和小学校もありますので、施設分離型のようにはなりません。

現在は、十川中学校を中心に小学校の連携に取り組んでいますが、図書館の関係、地域づくりの関係もありますので、もう少し教育委員会で議論していきたいと思っております。

町長 十和地域を1つのモデルとして、研究してみても良いと思います。

十川小中学校については、保育所の整備をしようとした場合、あそこしかないと思いました。日頃から、親としても子どもたちにしても、お兄ちゃん達が見えるようになるので、そこで優しさも生まれるようになると思います。

教育長 環境的には、すごい良いと思いますが、今後の課題として研究する必要があります。

佐々倉委員 土佐山学舎が、県外からも問い合わせが来るようになっている要因は、土佐山学に土佐山アカデミーが関わってるからであり、この土佐山アカデミーは、頻繁に東京に出向いては、親世代向けに土佐山への移住促進を行っており、ネームバリューがあるからです。

このように地域を見せるために学校を活用するのであれば、

専門のコーディネーターが入らないと、特色を出すのは難しいと思います。

町長

将来的に子どもの数は減っていく状態で、今は小中学校には町内から就学している。色々と問題はありますが、地域へ帰ってもらいたい思いがあるので、町外からではなく町内から義務教育学校ということも選択肢の一つだと思います。

影野小学校の坂山校長と色々話をする中で、窪川小ではなく、影野小だったらこんなことはできなかっただろうということが耳に残っています。子どもの状況によって選択できる学校が必要ではないかと思います。マンモス校ではなくても多人数の中での教育を選択できる環境も作ってあげたいなと思っています。一般質問に出たからではなく、前からそういう思いはありました。一定の環境でなければできない子もいるし、選べるような環境にできたら、子どもの成長にとって良いのではないかと思います。

今日の着地点として、義務教育学校は、1つの選択肢であることを確認したいと思います。

教育長

目的をどこに位置づけてするかをはっきりさせないと子どもたちにとっては良い環境にならないと思います。

合同会を開催するとか中学生と小学生が交流するとか、できていることももちろんありますが、先生方に時間的余裕がないことが、働き方改革に面からも課題で、先生方のためにも行事の整理をするなどから始めたほうが良いと思います。

総務課長
坂本委員

ほかの委員さんもどうでしょうか。

義務教育学校は、メリットもありますが、9年間を考えると、迷われた子どもの選択肢が、中学校に入るときにあっても良いと思います。

人間関係などにちょっと行き詰った時などに寄り添える環境があればと思います。

町長

上手く行かなかった時には、厳しい状況も出てきますね。

坂本委員

メリットの中に先生方が一貫して見守ることができるということがあったので、そういう環境を9年間継続することが難しいという考え方もあるからだと思います。

石崎委員

私はあまり知識がないので、県外などにどんな学校があるのか、気になっていましたが、小中が併設する形などもあるようです。

大川村は、一時期、県内の他の市町村からから子が入ってきた状況があったようです。大川村は、人の少ない地域ですので、もっと人口増やしたいという目的があったのではと思います。

やはり目的が一番大事で、四万十町もこれから人口が減っていくことが予想されますし、その辺を中心にして考えていただきたいです。全国から来れるような学校も一つの方法ですが、四万十町の核になる学校であれば、全国から来てもらえなくてもいいと思います。

規制があって難しいと思いますし、また9年間が同じ学校となると大変だと思いますが、選択できる学校が一つでもあればいいと思いました。

町長

ありがとうございました。

この課題について、大変勉強になりました。

やはり子どもたちが自由に教育を受けることができるというのが基本であり、しっかり子どもの成長過程に合わせた教育ができればと思います。

ただ昨今は色んな課題がありますので、情報共有しながら、その中で一番の選択肢を打ち出して進めていくことが、子どもたちのためになるのではと思います。

今回の義務教育学校については、しっかり目標を設定して、どういう教育をしていくのか、どういうふうに進めていくべきか、上手く選択できる流れもまた必要だと思いました。

今日、は義務教育学校、小中一貫型の小中学校含めて、今後もっと議論をしていただいて、私たちも勉強する機会をいただいで非常にありがたく思いますので、将来に繋がるような学校であるという位置づけで行きたいと思いますし、情報収集と連携協議をしながらやっていきたいと思いますので、またよろしくお願いします。

総務課長

ありがとうございました。この議題については、以上で終わります。進めやすくしていただきありがとうございます。

— 休憩 —

総務課長

それでは、「文化的施設について」を議題としますので、教育委員会事務局から説明をお願いします。

教育委員会事務局から、配布資料に基づき、文化的施設の目的、整備スケジュール等について説明

林課長

四万十町文化的施設については、基本計画の概要版の中で、

様々な役割を挙げています。また、5つの目標を掲げて、目標を達成するための様々な役割を持つのが文化的施設であると位置づけしています。

この窪川の街中に新しい流れを作り、活性化していきたいということも大きな目標です。当然子どもたちへの投資が大きな目標ではありますが、それによって新しい流れを作りたいということももう一つの目標でもあります。このままいくと、都市経営の負のスパイラルのようにどんどん悪い方向へ流れていくことが想定されますので、何とか脱却したい、その歯止めをしていきたいと、切なる願いを持っています。

このコロナ禍の中であつても、選ばれる町になっていきたいということも大きな目標の一つです。

総務課長

ありがとうございました。このことについて意見交換をしたいと思います。

町長

予算提案者である私からも町の考え方として、文化的施設について、説明させていただきます。

この施設については、現在15億円という整備費を予定しコンサルが入ってます。この金額が高い安いはそれぞれご意見があるとは思いますが、中期財政計画の中では、しっかり15億円を手当し、さらには、今後の財政計画上からも、ランニングコストも含めて実現可能な額という判断をしております、それに伴う調整・協議をしながら進めています。

どうしても事業費が高いということが先行している状況ですが、町財政の中ではしっかり位置づけをさせていただいてますので、補足をさせていただきました。

佐々倉委員

まず、1点目として、こういうお話をするのであれば、企画課の方にも同席していただいた方がいいのではと思います。

2点目として、説明では、未来の展望の中で町が活性化していきますという結論になっていますが、最初には、子どもたちの未来に投資することになっています。まちづくりと子どもたちの教育とは、繋がってはいますが、全然目的が違うと思います。あたかも子どもたちの教育に投資している図書館のように書かれていますが、子どもたちの図書費書籍費に何割当てますという一言がありませんし、最後のこうなったらいいなという絵図には、子どもたちが一切出てきてないので、これはまちづくりなのか、教育としての機能を充実させることが目的

なのか、はっきりしていないので、誤解を生じるのではと感じてます。

普段は、生涯学習課の皆さんが、説明会や役場内での説明会もしたという話も聞き、すごく丁寧にコミュニケーションを取ろうとしていると感じていますが、まちづくりの話がメインになっていると思います。まちづくりがメインになると実感しにくいので、「なんとなくいいんだろうな」と思われる方か、「町がそうしたいんだな」という意見を持たれる方に分かれてしまうと思います。

自分が提案したものが町費で賄われるのであれば、「いいよいよ、やってやって」となると思いますが、「これやるよ」とドンと持って行ってしまうと、「うわ来た」みたいな感じにどうしてもなってしまいます。

地域の方々、子どもたち、保護者のためにというのであれば、持って行き方があるのではと感じています。「作りますよ」ではなくて、「あったらいいかなと思うんだけどどう思いますか」という伝え方をさせていただいてると思いますが、もうちょっと町民側が当事者と思えるような表現があったらいいと思いました。

いい循環ができることは、分かりますが、本の話がないのが気になっています。15億円という大きい予算の中でまちづくりだけではなくて、建設費だけでもなくて、書籍を扱う方との専門的な話も司書の方や外部の方々に向いて詰めていただきたいです。

林課長

確かにお示しした資料の中に図書館の本をどうするかなど、具体的な図書館をどうするかについて載っていないというところはあります。

ただ、どうしても今は教育委員会が主体となって図書館・美術館を作っているんだろうというような捉え方をされている状況が、庁舎内、住民の皆さんも含めて、結構多いということがありますので、改めてオール四万十町、四万十町役場全体でこの事業に取り組んでいることをご理解いただきたいという思いの資料となっています。

当然、教育委員会は教育について、一生懸命やるべきではありますが、新しい公共施設を作るにあたっては、その施設をフルに活用することも行政側、特にまちづくりやにぎわいの点か

らの責務です。教育委員会と町長部局が一緒になってこの事業に取り組んでいるというところを、特に見せたいという思いの濃い資料で、図書という部分が薄くなっています。

現在、サービス計画を策定中ですので、今後その中で具体的にどういう形の図書館・美術館、展示施設として運営していくのかを具体的にお示ししていくことになると思います。

それと、図書費のことについてですが、毎年、予算査定の時期には、400万円という予算を確保していますが、増やしてほしいという要望はしてきています。新しい施設を作る時にしっかり予算を確保する必要があると確認し、現状維持で我慢しているというところです。

町長

林課長からもありましたが、佐々倉委員のおっしゃるとおりだと思います。ただ、色々なご意見もあり、町としての考え方、方向性をまずは理解してもらうための資料となっています。

子どもたちが成長過程で様々なそこで体験してもらい、またそのような時間の過ごし方を癖付けもしながら、段階的に図書に親しんでもらう施設にしたいと思っています。加えて美術館、歴史的なことも学んでもらう拠点。「駄場」という「人の集まる場所」という表現もしながら、その中で生涯教育をしっかり推し進めたいと思います。

今は、このような方向を中心とした意見をPTAや様々な所でいただきました。その中で言われたことにしっかり取り組みたいと思います。付加価値や二つ目の産物である活性化につながるものであると捉えています。

ただ、この施設整備を他人事ではなく、町の活性化にも繋がるという内容を、今回指摘されたことをしっかり含めて、サービス計画を策定したいと思います。本来は、サービス計画が先にあって基本設計に活かせるのが一番良かったと考えますが、基本設計が上がるまでサービス計画を睨みながら、検討委員会で提案していただいたようなこともスペースの中に位置づけできればと思います。具体的にどんな動き方をして、それぞれ子どもたち、また町民の皆様がどういったことで関わりを持っていただけるか、今、作成中ですのでご理解ください。

実際、今あまり多くの方が利用している状況にはないと聞いてます。将来に渡って段々に子どもは減るといえども、全体でまだまだ千人を超える子どもがいますので、施設そのものもそ

うですが、付近の芸術文化のゾーンも親しんでいただけるような進め方を政策的にしていきたいと思います。

十和の話も村井議員から出てましたので、連携であるとか本の移動であるとか、また本だけではない全体的な動きは付けていきたいと思います。まずは、文化的施設を中心に、第二の効果として町並みへの好影響をしっかりとPRしていきたいと思います。全ては上手く行かないと思いますが、将来に向けた大きな方向づけということで、説明をさせていただきました。

ご意見は、真摯に受け止め、肝に銘じて進めていきたいと思っています。

当事者意識は大事なことです。教育現場も含めて、校長会などでもしっかり説明させていただきます。

今日は、教育委員さんに説明する初めての会で、情報提供が遅れて申し訳ありません。精一杯取り組んでいきたいと思いますので、またご意見をいただければと思います。

佐々倉委員

十和の話もさっきありましたが、子どもに対して投資をするということを目的とするのであれば、箱を作ってほしいということではありません。15億円の中のいくらかが十和に付いたからどうなるということではなく、十和は距離があることが一番の問題です。距離があっても子どもに対してきちんと本が手渡せるように、どうサービスを作っていくかが問われていると思います。職員の方がかなりマルチに対応する必要が出てきますので、地域外、図書以外の美術なども含めて、文化的な観点で進めてほしいと思います。それを職員が負担に感じるのか、どう人選するのか、どう研修していくかは見えないところですが、課題だと思ってます。

町長

人選も含めて、協議していきたいと思います。

横山委員

説明の中で将来性については、「町財政が健全な限り問題ない」とあり、町長からも15億円は、財政的にもランニングコストも問題ないという話をいただきました。

文化的施設というものは、すごく大事でぜひ作っていただきたいですが、町の活性化も大事だと考えます。教育委員会だけではなく、図書館以外のまちづくりについては、町全体で取り組むもので、今後、文化的施設の周辺や町全体がどうなっていくのかと思います。

施設を作ることによって違った仕事も生まれ、忙しくなるこ

ともあるかもしれないですが、その周辺、歴史と文化というテーマだけでなく、建物もその地域に溶け込んだものとする構想も必要ではと思います。電柱をなくすとかカラー舗装にするとか思い切ったアイデアを町全体で考えてほしいです。例えば、10年後50年後には図書館に職員がいないやロボットによって無人化されているなどです。

十和地域には、館が付いた施設がほとんどないので、ぜひ文化的な面での施設を学校の建て替えの時に何とかしてほしいと思いますし、合わせて検討してほしいです。

町長

私も商店街などへの地域振興効果をどう出すのかが課題だと思います。

長い間、行政を見てきた中で、特に商店街の活性化事業は、打ち上げ花火で上手く打ち上げても火が付きませんでしたので、今回はまず施設ではなくて、商店街について商工会や観光協会がどういう考えを持ってるか、中心市街地活性化に本腰を入れてやるつもりなのかを見てみたいと思っています。カラー舗装や街灯などの環境整備はできますが、実際に自分がプレイヤーになった場合の展開が、特に窪川の市街地は弱いです。

今後については、色々なことも考えないといけないので、商店街も観光協会もきちんとやっていただけることを確認する必要があります。お互いが同時に確認し合わないとな力が抜けると思います。

今、十和、大正を含め、特に窪川地区は、チャレンジショップなどをやっていますが、町としてこんな人を迎えたいと示すことが一番大事だと思います。そういった中で魅力ある町が形成されていく。移住者目線でUターンしてもらえるようなまちづくりをしっかりとしないと生きていけないと思います。

商工会、観光協会の役員を話す機会がありますので、そこでしっかり自分自身で判断したいと思っていますし、場合によっては強力に指導していきたいと思います。

起業する若い人もいますので、町の職員だけではなく商工会や観光協会の組織がしっかりかわらないと進みませんので、連携して精一杯やっていきます。

大正、十和も商店がだんだんと減ってきて、危機感もあります。文化的施設だけではなく地域が元気になる取組を進めていきますので、よろしくお願いします。

教育長

現在、進めている文化的施設については、これまで年数をかけ議論していただいた基本計画を、基本設計へと上げる段階にはなっていますが、今年、少し立ち止まる必要があると考えています。事業費のイニシャルコストも含めた数字だけが一人歩きしているような感じも受け、中身の議論は聞いてないという方がいることは、教育委員会としても反省すべき点です。

まちづくりと教育は切っても切れないものですが、子どもたちへの繋がりが少しイメージしづらい状況となっています。

当事者意識が持ちづらく、そこまでに届かない分野だと思えますが、やはり図書館サービス、図書館行政を、この文化的施設機能の中で考えなければならない状況にありますし、地域の活性化、市街地活性化に向けた基盤となる施設でもなければなりません。今まで教育委員会が事務局として進めてきた案件については、町長部局と一体になった全庁的な取組として、来年度は進めなければいけないと思います。今は、足踏みしている課題も、教育委員さんに少しはお分かりいただいたと思いますし、これを具体化するに当たって、この説明資料では少し分かりづらい所もありますので、委員さんの意見もお聞きできればと思います。それから、サービス計画の具体案が決まってないこともあります。子どもたちがここを活用して何ができるかイメージがまだ出来てないこともあって、イメージしにくい状況もあります。

今後、説明会等行うにあたって、住民の意見も聞く機会、提案いただく機会もあろうかと思いますので、今後、町長部局と進めていくにあたって、説明資料も含めて、町長のご意見もいただければありがたいです。

町長

子どもたちが勉強できるような環境については、学習の拠点があって、総合学習の場であり、子どもたちが様々な活躍できるような場で、人員体制の充実も含めてのことだと思います。

生涯学習という基本的な考えの中で、当然普通の学習も出てくるであろうし、子どもたちが体験も含んだものです。そういう拠点として、森の幼稚園という事業もありますので、私の責任としてスタッフの配置も含め、手前から準備もしながら、子どもたちがしっかり活用、体験できるような環境にしたいと思っています。

今日は、ここに生涯学習課長も同席していますが、「生涯学習」

をどう展開するかということは、本当に子どもたちにも社会人にも大事なことです。当然、学校教育も大事ですが、私は、生涯学習は、昔から非常に大事な分野だと思ってます。生涯学習の中でこの文化的施設を、あるいは全体的な社会教育も含めてご利用いただければ非常にありがたいと思いますし、また情報共有をしながら、進めていきたいと思います。

昔は、地域に根差した職員もいました。それが全てではないと思いますが、今までのやり方があると思うので、その視点でも進めていきたいと思います。その中に文化的施設はあると自分は捉えています。

石崎委員 これから、考えていくことだと思いますが、子どもたちの未来に投資するという大きな目標を掲げてますので、子どもたちに文化的施設に来てもらうような策になればと思います。

文化的施設に子どもたちが足を運び、そして関連した施設にも出向いてもらえるようになる、それぞれの施設で子どもたちが輝くようになってほしいと思います。

私も初めて図書館へ行ったときのことを覚えています、子どもたちも体験すれば必ずインパクトに残ると思いますので、そのような内容を考えていければと思います。

坂本委員 2月の研修で高梁市の図書館に行ってきました。そこには、満足度の項目をまとめたものがありまして、1番は「無休である」、2番は「居心地がいい」、3番は「スタッフの対応がいい」、「開館時間が長い」、「本の数」となっていました。説明をお聞きして、こういうことを目標とすれば、満足に近い施設が出来るのではないかと思います。

総務課長 この文化的施設については、町長部局、教育委員会が連携しながら、進めているところですが、今日は確認と意見交換ができればということで、議題とさせていただきました。

最後に町長、教育長からひと言いただきたいと思います。

町長 意見の中で、佐々倉委員からは、子どもの育成、成長過程での必要性をしっかりと見出すこと、広がりを見せることを、坂本委員からは、高梁市の満足度の話もありました。

目指すべきものは、何よりも子どもたちがそこに集まって活動する拠点、自由に学ぶ寺子屋的なものだと思っています。

中学生にもこんなものができるようになるということについて、調査をしてみたいと思います。皆さんに好まれる施設を作

るためにいただいたご意見もしっかり反映することをお約束させていただきます。

教育長

文化的施設については、四万十町の今後のまちづくりと子どもたちへの投資という表現をしています。

子どもたちの未来を創ることが、新たなまちづくりにつながり拠点になる文化的施設のイメージです。まだまだ議論が必要であると思います。今後も町長部局と教育委員会が一緒になって、未来に向けて進んでいきたいと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

総務課長

以上で、本日の議題を終了します。

ありがとうございました。

会議録署名人

四万十町長

中尾博憲

四万十町教育長

山脇光章